

狛江市地域公共交通計画 作成の進め方

令和 8 年 7 月 1 日

進め方について

目次

- 1. 地域公共交通計画の位置づけと目指す姿・・・・・・・・・・P3
- 2. 地域公共交通計画の作成フロー・・・・・・・・・・P7
- 3. 調査・分析のアプローチ・・・・・・・・・・P8
- 4. 今後のスケジュール・・・・・・・・・・P16

進め方について

1. 地域公共交通計画の位置づけと目指す姿

地域公共交通計画とは・・・

- 「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすものです。
- 地方公共団体が地域の移動に関する関係者を集めて「活性化再生法」に基づく協議会を開催しつつ、交通事業者や地域の関係者等との個別協議を重ねることで作成していくものです。

（参考：「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律等」）

・・・持続可能な地域旅客運送サービスの確保に資する地域の主体的な取組を推進するため、地域公共交通計画の作成やこれに基づき実施する事業等について定めた法律

・・・「地域公共交通計画」を策定した上で、地域の関係者が連携（共創）を通じ、利便性・持続可能性・生産性の高い地域公共交通へのリ・デザイン（再構築）を進めるための枠組みを創設・拡充

進め方について

1. 地域公共交通計画の位置づけと目指す姿

地域公共交通計画とは・・・

計画書に記載する事項（法定）

- 計画の区域 ……**狛江市全域**
- 計画の期間 ……**計画作成後の5年間**
- 基本的な方針 ……**めざす姿、取り組みの方向性（まちづくりとの連携等）**
- 今後の取り組み（事業）とメニュー
- 取り組み（事業）の主体
- 取り組みの進め方（スケジュール等）、評価指標・目標値

進め方について

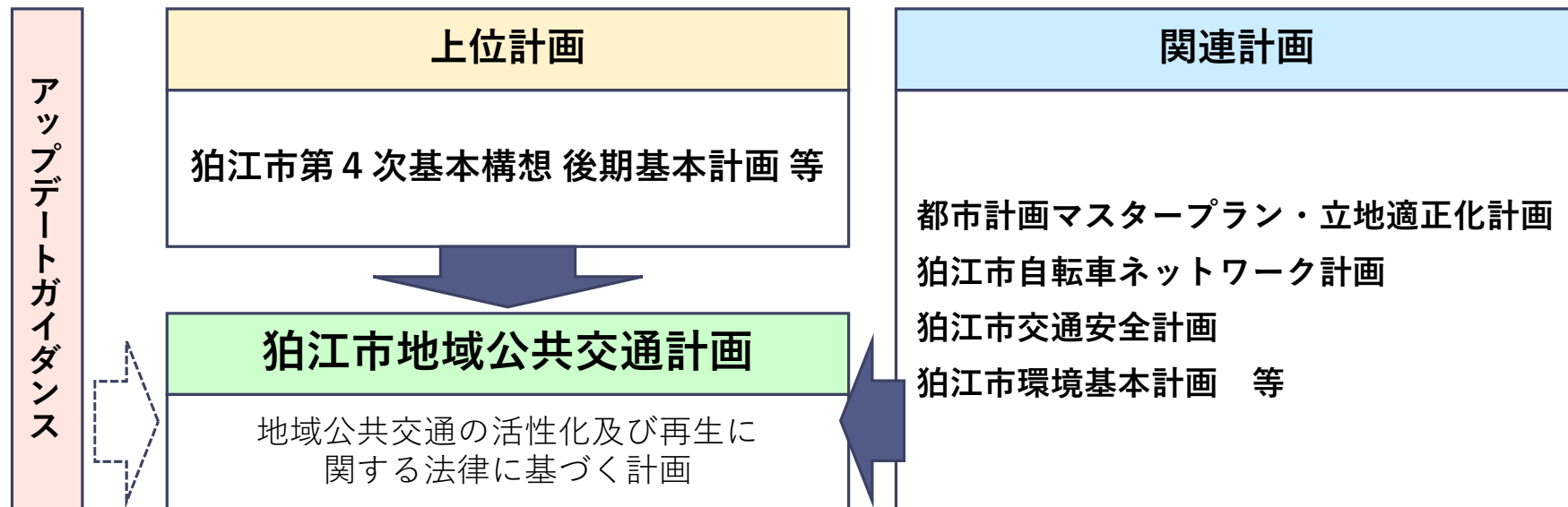
1. 地域公共交通計画の位置づけと目指す姿

【地域公共交通計画の位置づけ】

○本計画は「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、狛江市全域を対象として策定。

（計画期間はR9年度～R13年度までの5年間を予定）

○国の基本方針や東京都の基本方針、狛江市の上位・関連計画等が目指す都市構造との整合性を図るとともに、地域交通計画の「アップデートガイダンス」に沿った現状診断等により、交通ネットワーク（幹・枝・葉の交通）の再構築を目指す。



進め方について

1. 地域公共交通計画の位置づけと目指す姿

【狛江市の目指す姿】

○狛江市の最適な将来ネットワークを検討するため、市全体・地域別（駅周辺や各住宅地など）・利用者別（年齢など）に交通の現状と課題を洗い出す。

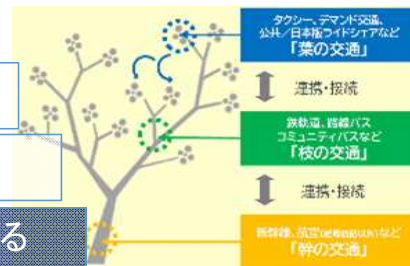
○その上で、路線バスやこまバスの利用状況を分析し、今のサービスを維持するか別の手段に切り替えるかを含め、将来のあり方を決定する。

地域別の把握

市全体の把握

広域の把握

狛江市の交通体系の幹線・支線を捉える



狛江市における地域公共交通の目指す姿を設定すべく、地域の現状を正確に把握するための各種調査を実施する。本調査のアプローチを以降に示す。

狛江市の公共交通ネットワーク



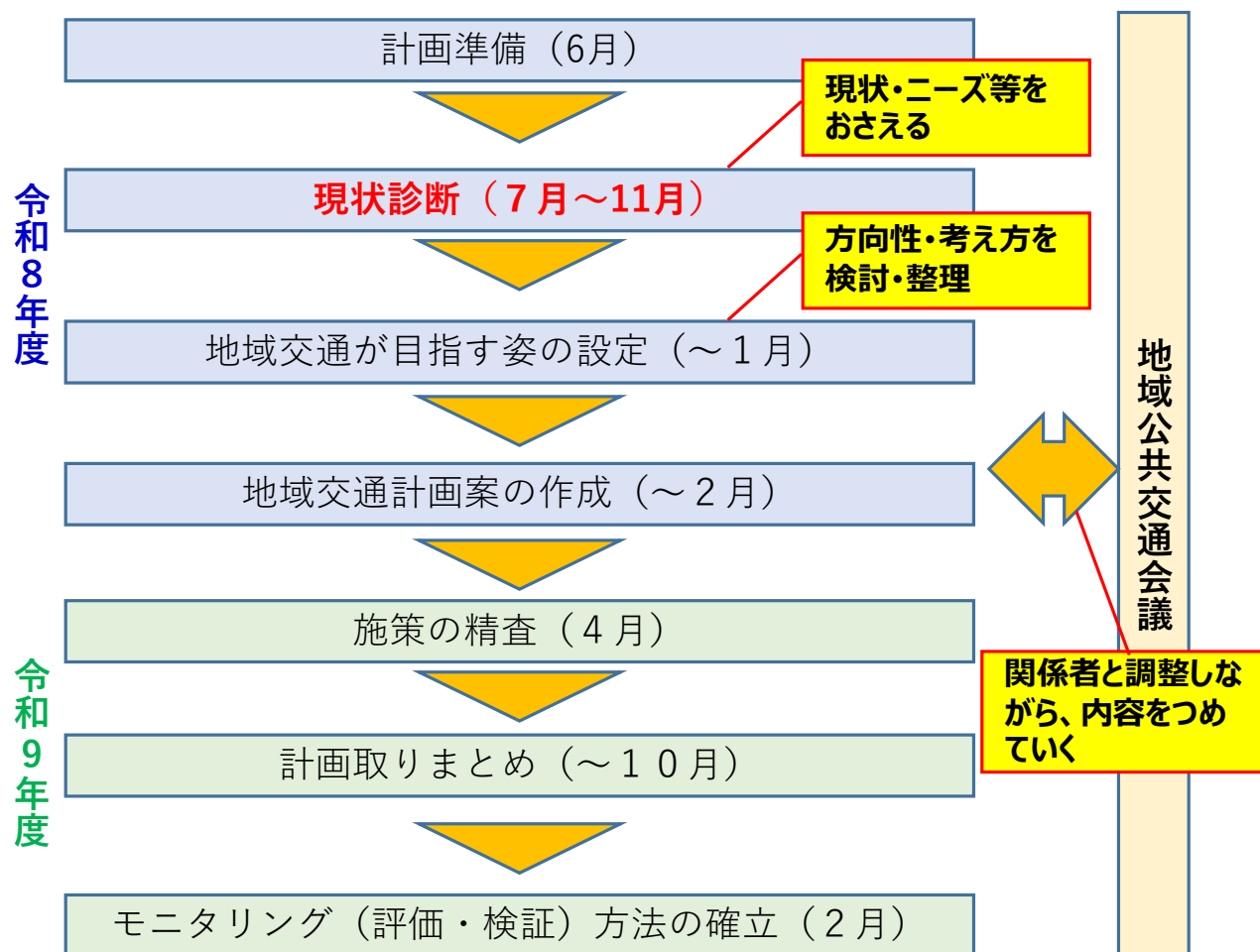
進め方について

2. 地域公共交通計画の作成フロー

※詳細のスケジュールはP18

- ・地域公共交通計画の作成にあたり右のフローに従って検討を進める。
- ・令和8年度に現状診断および各種調査を実施して地域の課題を洗い出し、目指す姿を設定したうえで計画の中間報告書案を作成する。
- ・令和9年度に具体的な施策を精査するとともにパブリックコメントなどを経て計画の策定を目指す。
- ・検討の各段階で地域交通交通会議との調整を実施し、円滑な合意形成を図る。

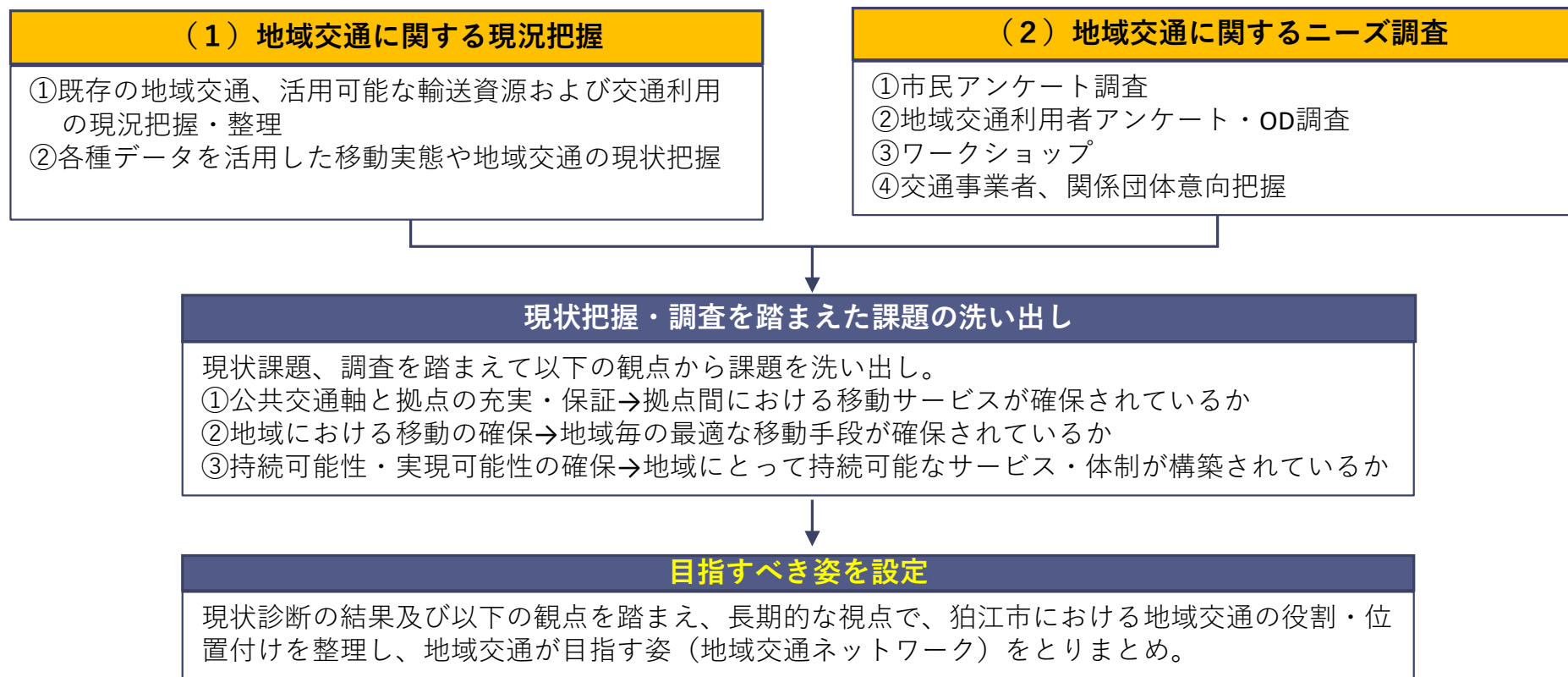
現状診断における調査・分析のアプローチを後述



進め方について

3. 調査・分析のアプローチ

- 地域公共交通計画の作成検討に当たり、狛江市の状況を正確に把握するため、**(1) 地域交通に関する現況把握** **(2) 地域交通に関するニーズ調査**から現状を正確に把握したうえで、課題を洗い出し、狛江市が目指すべき姿を設定する。
- 各種調査手法について、次頁に記載。



進め方について

3. 調査・分析のアプローチ

(1) 地域交通に関する現況把握

①既存の地域交通、活用可能な輸送資源および交通利用の現況把握・整理

狛江市における公共交通サービスの状況のほか、自転車やタクシーなど身近な交通環境、生活目的の移動、まちづくりとの連携を図るなど、複数の視点を重ね合わせて市域全体や地域別の現状を可視化。



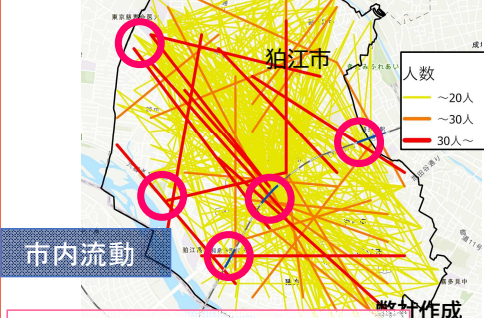
現状把握・調査を踏まえた課題を洗い出す

②データに基づく現状診断

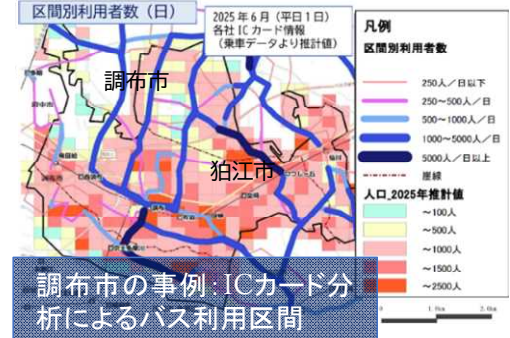
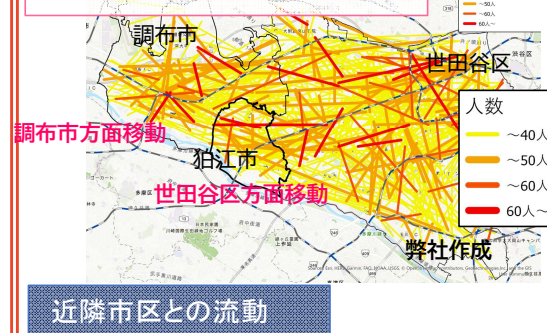
携帯電話位置情報(人流ビッグデータ)やICカードデータの活用により、市民の実際の「移動実態」と「需要と供給のギャップ」を可視化して地域別・属性別の丁寧なニーズを把握。

プログウォッチャーデータを活用

拠点への移動が多い



バス路線との整合確認



進め方について

3. 調査・分析のアプローチ

(2) 地域交通に関するニーズ調査

狛江市における地域別・属性別の詳細な移動ニーズを把握するため、①市民アンケート②地域交通利用者アンケート・OD調査③ワークショップ④交通事業者・関係団体へのヒアリングを実施。
各調査の実施に当たっては、狛江市公共交通会議最終答申に示される留意点を踏まえて設計する。

①市民アンケート

全体のマクロな方向性を把握



②利用者・OD調査

路線別の最適化・デマンド転換の判断材料



③ワークショップ

具体的な要望と市民理解（合意形成）の土台づくり



④事業者・団体ヒアリング

交通施策の連携・持続可能性の確認



◎地域に適した公共交通体系の構築

■最終答申に示す留意点（要約）

- ・ a) 生活のニーズと移動実態の把握
- ・ b) 地域拠点・軸などの地域特性
- ・ c) 鉄道・バス・徒歩利用圏域の交通ネットワーク
- ・ d) 地域ごとの居住者や高齢者などの人口情報や将来動向
- ・ e) 大規模団地建替えなどの新たな交通需要の予測
- ・ f) 高齢者・障がい者・子育て世代など属性別アンケート調査、ワークショップ等の結果の分析等
- ・ g) 公共交通事業者に情報提供を求め、需要と供給のギャップを把握

進め方について

4. 調査・分析の概要（案：次回会議まで継続して精査）

①市民アンケート調査

調査概要

調査予定時期：R8年8月～9月

○目的

※高齢者・障がい者・子育て世代など

地域別・属性別※のニーズや移動実態、新たな交通サービスの可能性を検証。**移動制約者**の移動実態やニーズも把握。

【市民アンケート調査エリア案】

調査対象・手法

狛江市在住市民に対し、市内11地区別に2,000票程度のアンケートを配布し定量分析。
※市内11地区別に定量分析



調査項目

- ✓ 基本属性
- ✓ 生活移動実態（普段の移動手段・目的・外出頻度など）
- ✓ 公共交通の利用頻度
- ✓ 普段の移動の困りごと
- ✓ 新たな交通の利用意向
- ✓ 今後の交通政策に対する意見等

■最終答申に示す留意点（要約）

- ・ a) **生活のニーズと移動実態の把握**
- ・ b) **地域特性**
- ・ c) **交通ネットワーク**
- ・ d) **人口情報や将来動向**
- ・ e) **新たな交通需要の予測**
- ・ f) **属性別アンケート調査**、ワークショップ等
- ・ g) **需要と供給のギャップ**

最終答申 留意点への対応

➡留意点f)属性別のニーズ把握

属性別クロス集計により、高齢者などの移動実態を抽出。

➡留意点b)f)地域別・属性別の特性を踏まえた把握

市内を11地区に細分化し、地区別の比較・定量分析が可能となるよう設計。また、属性別で集計が可能なように設計。

➡留意点a)市民の生活のニーズと移動実態の把握

通勤・通院・買い物など、具体的な生活移動を想定した移動実態を把握できる設問項目を設定。

アンケートにより可視化された地域別・属性別の需要を踏まえ、
持続可能な地域交通体系（幹・枝・葉の交通）の再構築（最適配分）を図る。

進め方について

4. 調査・分析の概要（案：次回会議まで継続して精査）

市民アンケート調査エリア別配布数（案）

【市民アンケート調査エリア案】



地区名	総人口（人）	人口割合	配布票数（票）	想定回収票数（票）
和泉本町	14,102	17%	457	183
中和泉	12,075	14%	392	157
西和泉	2,040	2%	66	26
元和泉	3,640	4%	118	47
東和泉	6,976	8%	226	91
猪方	6,865	8%	223	89
駒井町	4,477	5%	145	58
岩戸南	9,688	11%	314	126
岩戸北	9,309	11%	302	121
東野川	8,175	10%	265	106
西野川	7,425	9%	241	96
合計	84,772	100%	2,750	1,100

進め方について

■最終答申に示す留意点（要約）

- ・ a) 生活のニーズと移動実態の把握
- ・ b) 地域特性
- ・ c) 交通ネットワーク
- ・ d) 人口情報や将来動向
- ・ e) 新たな交通需要の予測
- ・ f) 属性別アンケート調査、ワークショップ等
- ・ g) 需要と供給のギャップ

4. 調査・分析の概要（案：次回会議まで継続して精査）

②地域交通利用者アンケート・OD調査

📊調査概要

調査予定時期：R8年8月～9月

○目的

路線別の利用実態やODの集計・分析を行い、路線別のニーズ、新たな交通サービスの可能性を検証。

👥調査対象・手法

●路線バス利用者

アンケート調査1,500票

●こまバス利用者（北・南ルートそれぞれ）

アンケート調査：300票、OD調査：全数※ビンゴカード形式

☑調査項目

利用者意見調査

- ✓ 基本属性 ✓ 公共交通利用実態 ✓ 公共交通の課題
- ✓ 新たな交通の利用意向 ✓ 今後の交通政策に対する意見 等

OD調査

- ✓ 基本属性 ✓ 目的 ✓ 乗降者バス停 ✓ 代替交通手段 等

🎯最終答申 留意点への対応

➡留意点：c)交通ネットワーク・役割分担を踏まえた把握
路線別に利用実態から、利用目的やニーズの高い路線などが分析可能となるよう設計。

➡留意点：b)地域特性を踏まえた把握
ハイタウン、多摩川住宅等の課題想定路線は個別対象アンケートを設計・実施。

➡留意点：g)需要と供給のギャップ把握
利用者意見やOD調査より供給側の利用実態の把握をするとともに、公共交通の課題や新たな交通の利用意向（需要）も把握し、供給側とのギャップを整理。

路線別の利用実態と詳細な移動データ（OD）を精査し、既存バス路線の効率化・ルートの最適化、およびデマンド交通等への円滑な転換（役割分担）の具体的な運行計画へ反映する

進め方について

■最終答申に示す留意点（要約）

- ・ a) 生活のニーズと移動実態の把握
- ・ b) 地域特性
- ・ c) 交通ネットワーク
- ・ d) 人口情報や将来動向
- ・ e) 新たな交通需要の予測
- ・ f) 属性別アンケート調査、ワークショップ等
- ・ g) 需要と供給のギャップ

4. 調査・分析の概要（案：次回会議まで継続して精査）

③ワークショップ

📄 調査概要

調査予定時期：R8年12月

○目的

市民の公共交通に関する意見を把握するためのワークショップを実施。

👥 調査対象・手法

2地域・各1回ワークショップを開催し、地域の交通課題について市民意見を把握

☑ 調査項目（ワークショップ内容）

- ✓ 公共交通の利用実態（よく行く目的地、移動手段等）
- ✓ 公共交通の課題・要望（普段の移動の困りごと等）
- ✓ 交通体系について ✓ 目指すべき姿 等

🎯 最終答申 留意点への対応

➡ 留意点：b) 地域特性を踏まえた把握

小田急線の北（西）エリア、南（東）エリアで1か所ずつワークショップ実施。

➡ 留意点：e) 新たな交通需要の把握

①市民アンケート調査や②地域交通利用者アンケート調査・OD調査では把握しきれない具体的な意見を把握をするとともに、新たな交通需要の変化や課題などを把握し、今後の交通政策につなげる意見を収集する。

アンケート（定量データ）では見えない地域の潜在的な課題や生の声を深掘りし、より生活の実態に寄り添った交通施策の立案と、新たな交通体系への移行に向けた市民理解（合意形成）の土台とする。

進め方について

■最終答申に示す留意点（要約）

- ・ a) 生活のニーズと移動実態の把握
- ・ b) 地域特性
- ・ c) 交通ネットワーク
- ・ d) 人口情報や将来動向
- ・ e) 新たな交通需要の予測
- ・ f) 属性別アンケート調査、ワークショップ等
- ・ g) 需要と供給のギャップ

4. 調査・分析の概要（案：次回会議まで継続して精査）

④交通事業者・団体等の意向

📄調査概要

調査予定時期：R8年9月

○目的

交通事業者意向、公共交通を要する高齢者・障がい者団体や高校等への利用者の意向を把握する。

👥調査対象・手法

交通事業者や関係団体等に対し、ヒアリングまたはアンケート等を実施し、事業者や移動制約者が抱える課題や今後の意向について把握

☑調査項目（ワークショップ内容）

【交通事業者】

- ✓ 運行回数、利用者数など
- ✓ 地域交通の利用特性
- ✓ 公共交通の課題や将来見通し
- ✓ 今後の交通政策との連携の必要性 等

【関係団体】

- ✓ 利用状況
- ✓ 公共交通の課題 等

🎯最終答申 留意点への対応

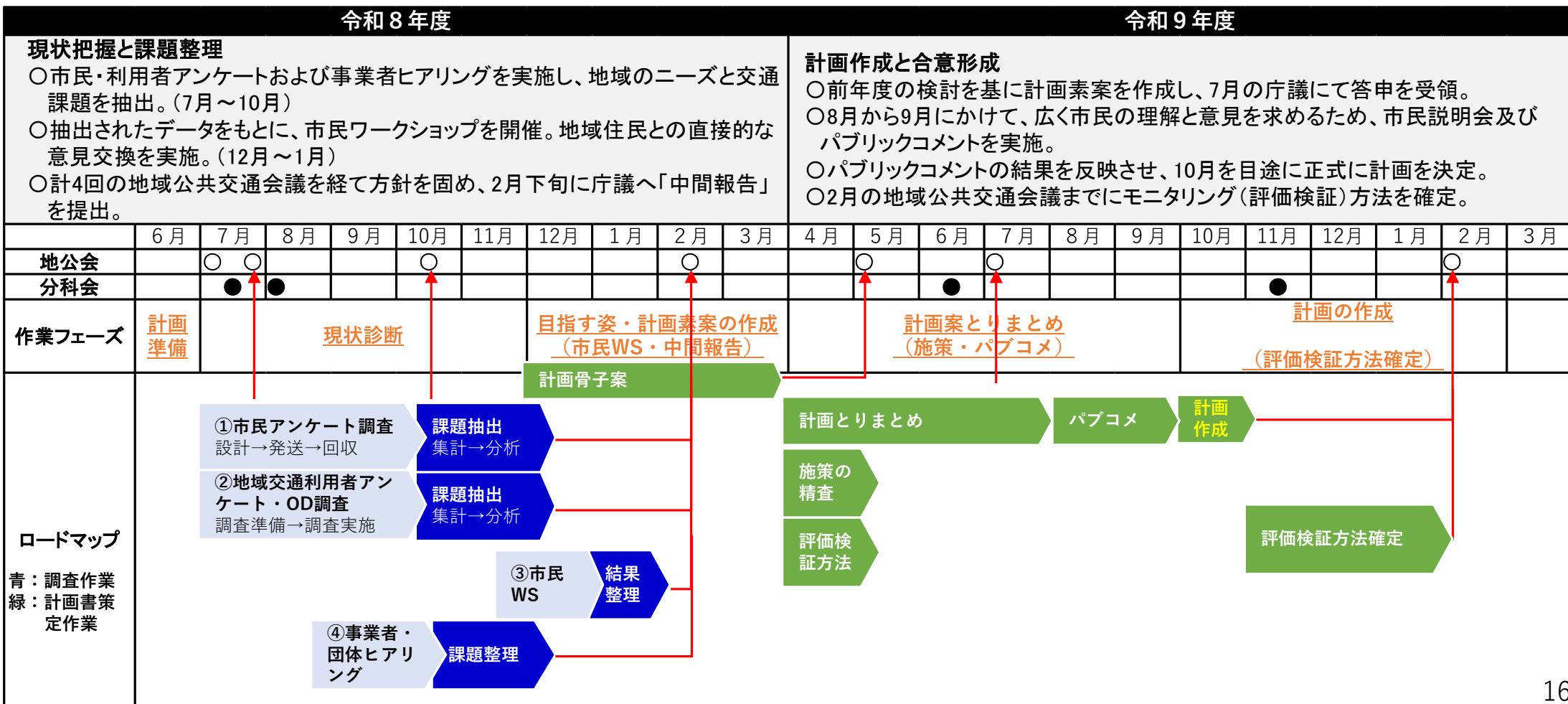
➡留意点：需要と供給のギャップの把握

交通事業者や公共交通を要する高齢者・障がい者団体等への利用実態や課題をヒアリングするとともに、交通事業者に対し運行回数、利用者数などの情報提供から、需要と供給のギャップを把握する。

供給側（交通事業者）の経営・運行実態と、移動制約者等のニーズとのギャップを擦り合わせ、実効性・持続可能性の高い交通施策への落とし込みと、官民連携による役割分担を明確化する。

進め方について

5. 今後の作成スケジュール（予定）



進め方について

5. 今後の作成スケジュール（予定）

※分科会の予定は、資料5参照

令和8年度	日 程	場 所	議 題
第1回 地域公共交通会議	令和8年 7月1日（水） 午後2時～	防災センター4階 402・403会議室	・ 狛江市の交通現状について ・ 諮問について ・ 狛江市地域公共交通計画の作成の進め方について ・ 狛江市デマンド交通実証運行事業について
↓ 検討事項	○現況整理 ○ニーズ把握（アンケート調査）設問設計 ○地域交通会議作成スケジュール		
第2回 地域公共交通会議	令和8年 7月29日（水） 午後2時～	狛江市役所3階 第一委員会室	・ 市民・利用者アンケート調査等の設問設計について ・ 狛江市デマンド交通実証運行事業について（運行エリア、乗降ポイント、運賃等協議）
↓ 検討事項	○現況把握 ○ニーズ把握（アンケート調査）設問設計		
第3回 地域公共交通会議	令和8年 10月19日（月） 午前10時～	防災センター3階 302・303会議室	・ 市民・利用者アンケート調査等の中間集計報告について ・ 狛江市の地域公共交通における課題整理について ・ 市民ワークショップ等について
↓ 検討事項	○地域ニーズ調査結果の分析および課題の洗い出し ○目指す姿の設定 ○市民ワークショップ等 ○地域交通計画素案の作成		
第4回 地域公共交通会議	令和9年 2月12日（金） 午前10時～	狛江市役所4階 特別会議室	・ 主な施策と評価指標について ・ 中間報告案について ・ 令和9年度以降のデマンド交通実証運行の方向性等 ・ 令和8年度補助金実績報告決議について
↓ 検討事項	※R9年度業務へ（施策の精査、答申とりまとめへ）		